



昭和八年十月十三日 白水 大 治 七

の状態で候それに対して完膚なき迄に痛棒を加へられたるは眞に痛快事にして護國救道の大本願といふべく茲に謹て贅辭を呈し候 (後略)

**内郷村報の 六大使命**

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村及本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

天法人則 從順ナレ

## 全國方面委員 大會參列記

### 一、緒言

全日本方面委員聯盟主催で十月九日より三日間、大阪市中ノ島公會堂に於て、第四回全國方面委員大會が開催せられ、本縣からは照沼渡邊辨了、郡山市松山政治白河町小山久吉、喜多方町上野覺雄の五氏及記者の六方面委員が、代表として之に參列した。記者の出張に對して、縣からは勿論、郡村及警察から、過分の旅費を給せられた。之を徒費しへたので、尙之に私資若干

を加へて、十月四日より十有八日間、心身の全力を致して活動した。此參列記は即ち其記録の大要である。之を特に前記の關係者諸彦に呈して、御土産とする次第である。

### 二、天祖祭

大會參列の命を受くるや、直ちに念頭に浮んだのは、全國代表の參列！好機は逸すべからず！本紙九月號に掲載した天祖祭制定の議を、持ち出して、全參列者の賛同を得て、帝國議會に請願しやうといふ事であつた。直ちにそする事に決定し前記天祖祭制定の議全文は

(臨濟宗建長寺派菅原長書簡)

**貴酬** 八年十月一日第三十七號の内郷村報一部難有拜讀仕候 貴下の云はるゝ通り 解らぬ經を讀む借のみ 私も其一人 慚愧茲に前非を悔い 及ぶ限り 貴命に隨ひ 勤勉可仕候 乱筆不文多謝々々

昭和八年十月九日 菅原時保

瑞芳寺聖光院及本社後援の 駒澤大學傳道部照心會の、佛敎講演と童話は、傳道員 花岡氏外五名によつて、十

左の一文を添へて、村報號外二千五百枚を發行して、之を持參する事にした。

第四回全國方面委員大會 御列席各位に特に懇願す 福島縣方面委員聯盟 理事 大内民惠 謹啓 忽忙混雜の際 洵に恐縮の至りでありませぬが、別項天祖祭制定の議を御閣下御覽御下されたいと希望を有する請願書に、御署名御捺印下さる事をお願いしたいと思ふのであります。斯る問題は餘りに機点が大いなので、或は我々方面委員



代表 野上 昭沼 渡邊 山松 小山 大内 原大

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙發行は一月一冊 本紙定價一冊五錢五分 郵費別 郵局掛金四十八分 發行所 福島縣郡山市内郷村宮下三丁目 電話 八八二〇 編輯者 菅原長書 印刷所 福島縣郡山市内郷村宮下三丁目 電話 八八二〇

議へ、御採擇御決議の上 其筋に建議する事に 御賛成下さるを得ば 無上の光榮幸甚とするものであります。 敬具 昭和八年十月九日 備考 一、大會開期中に用紙を道府縣別に差上げて御署名御捺印をお願いしたいと思ひます。二、紹介者になつていただく議員は交渉中であり本文は起草中でありませぬが、何れも私に御一任下さる事を併せて御願いたします。三、其後の経過については方面時報誌上で御報告いたしたいと思ひます。

### 三、出發

いよいよ出發の日十月四日此日村報十月號發送指圖の爲に、殆ど午前を費やし、晝食もそこへに旅装をこゝのへ、先づ警察礦業所に敬意を表して、驛驛二時發で上京の途に就く。

暑からず寒からず、それに上天氣さ来て居るので頗る爽快である。窓外は穰々たる稲田、恰も黄金の波うつ湖の中を行く様な気分である。こゝ、數日間晝夜兼行の疲れが出たものか、持ち込んだ本を讀む勇氣も出せず、幸ひ席もあいて居るので、横になつてしばしば居る。土浦あたりで目を醒せば、筑波山の彼方に、近頃稀に見る美しい夕日が落ち、暫らくして東の空には、それこそ仲秋の満月が姿をあらはした。

筑波嶺に夕日はおちて霞浦はれたる沖にのぼる望月 荒川沖畔に着いたら、プラントホーム一べいの人で、窓から迄なだれ込み身動きも出来なくなつた。聞けば競馬歸りの連中との事、儲けた人、損した人、一見してわかる様に思はれた。車内は競馬談で

はれたる沖にのぼる望月 荒川沖畔に着いたら、プラントホーム一べいの人で、窓から迄なだれ込み身動きも出来なくなつた。聞けば競馬歸りの連中との事、儲けた人、損した人、一見してわかる様に思はれた。車内は競馬談で

田口 淳三 日本着をきたる二郎を今更にあふき見るかな日曜の朝 民惠

喧々囂々。七時上野着、上野禁酒ホテルに入り、荷物を置いて直ちに園タクを驅つて、牛込の敬文社印刷所に入り、請願用紙其他の印刷方を命じ、歸宿入浴十二時就床、洋式で寢臺である。

### 四、東京

十月五日、七時迄寢る予定であつたが、五時にはちやんぷと目が醒めた。朝刊を買はうと、キヨシキのかくしに入れて置いた小銭入を出そうとしたら、鎖から切りさられてあつた。してやられたり、宿を通じて手續きをする。昨夜入浴の留守の間にはやられたらしい。被害十餘圓、後援各位に對して相済まぬ事をしたと思つた。其爲寢定の時間に狂ひが出来たので、急いで車を飛ばし

麴町の全日本方面委員聯盟本部を訪ひ、原事務理事の出勤を待つて會見し、天祖祭制定の議提案の件を諮る既に議案も決定し、時間もあるまいからといふので、列席者に請願書に署名してもらふ程度に、便宜を計つてもらふ事に諒解承諾を得それから昨夜の印刷所におしかけ、つき切りて組版を監督し、校正をすまじ、神田の大日本禁酒聯盟を訪問内郷禁酒貯金會の加盟其他の手續きを調べて、電車の上野に引き返し、十月から市社會局經營となつた、上野簡易食堂で夕食をすます分量は少いが相當な物を食はせて金二十錢也だ。以前と變つて萬事が整ふて氣持

はれたる沖にのぼる望月 荒川沖畔に着いたら、プラントホーム一べいの人で、窓から迄なだれ込み身動きも出来なくなつた。聞けば競馬歸りの連中との事、儲けた人、損した人、一見してわかる様に思はれた。車内は競馬談で

五、大道講演

一面よりつづく
致丈は我輩もやり得なかつた。拍手喝采しは鳴りも止まず。其處で大道講演の一計を案出、帽子をこつて一職、咳一咳、聲響ツウ辨、混沌たる世界の大勢から説き起し、藩府の軍縮會議停頓、ワシントン經濟會議の行詰り、ヒツトラーやムッソリニの躍動を語り、日本と國際聯盟の分袂、滿洲問題、大亞細亞主義等を説き、最後に我國民の覺悟心得に及び、故によく働き、よく遊べ、但し如きは、断じて之を許さざるなりと、カフエを指し、約三十分で結論すれば、營業を妨害するなといふ者あり、それに應じて會衆一同聲を揃へて、何を云ふも一喝する先生は何處です、お名前を聞かして下さいと、云ふ者が現はれたので、



變記の者

で、我輩は先生ではない、一介の労働者、しかも職務に忠實其最善なものを、國民に過ぎない、ダンスも講演も之でお仕舞だ、諸君の解散を希望すといひ放つて、間近なる宿の方に向つて、修々歩き出した。處がぞろ／＼ついで来るの、一計を案じ、折しも流し來れる圓タリに飛び乗り、方向轉換、不忍池畔迄まはして下車、よい年をして馬鹿な真似をしたものかなと考へた。

六、明治神宮

十月六日、準備全く成り、新に行季を求めて、印刷物を納め、他の荷物と共に、大阪に向けチツキに出し、午後心身を清め、モリニンクに服を改め、車を驅つて明治神宮に参詣、

七、湊川神社

神戸驛に着いたのは、十月七日朝七時、雨を衝いて勝手知つたる湊川神社に参る。之で三度目である。丹念に口をそゞろ、手を洗ひ、御本社は御改築中なので、御假宮に詣つ。

八、大阪

どりかゝつた。女中さん達にも應援してもらつて、折つたりとちたり、入れたたり書いたり、午前一時迄勉強したが、尙二十余縣分を剩し、久しぶりで絹布の夜具に包まれて就床。

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民憲 著
服部宇之吉

（四六版）二一頁 定價五十錢 郵税六錢

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に達せらる。味未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年御體験下實地ノ御試験ニ基ク眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不感感激ニ打テ申候云々。

日本評論社

發行所 日本評論社
東京丸の内區神田

郷村報社

發行所 郷村報社
東京丸の内區神田

九、代表委員會

此夜六時から、緬羊俱樂部で、各府縣から二名、即ち

労働者故小川

式には、博士と縁因深き松山委員が参列、第一委員會には小山委員、第二委員會

強制労働所設置に關する建議の四項であつた。それ、原案を慎重審議の結果、すべて妥當と認められた。

通りの人々も集つて来て、身邊に黒山の如し。之には我輩も聊か面喰つたが、どうせかうなつては、よい加減に一曲をやり終へた。但し尻振りの極

月を賞す。中學の頃一冬毎朝未明に、駈足で池を一周した事を思ひ出す。今や辨天を中心に十字形に通路が開かれ、池の半分にはホトトが浮べられ、池の四邊の風物

手知つたる涙川神に参る。之で三度目である。丹念に口をそそぎ、手を洗ひ、御本社は御改築中なので、御假宮に詣つ。

一人、登壇する事になつた。雄辨あり、訥辨あり、大風呂敷あり、小風呂敷あり、前置が長くて本題に入らないうちに、時間経過で引き下げられる人もあつた。要するに地方の研究會か、指導會の問題に過ぎないで、大會の問題としては、餘りに當を得て居なかつたかに思はれた。何れも千篇一律で、たまには一篇一律もな

して下車。何れも別な仲、イヤが其挨拶である。松山兄から何だ其風體は、今から變装か一喝される。但し上野兄は朝入版の豫定。一同四室に分宿する。(以下三面につづく)

矢野 恒太 大内民 惠著

教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同故舉に違あらず。味と未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威

前京大總長小西直博士 書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試驗ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕テ不思感激ニ打テ申候云々。

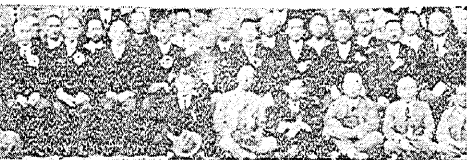
發行所 日本評論社 東京丸の内昭和ビル 取次所 内郷村報社

九、代表委員會

此夜六時から、緬羊俱樂部で、各府縣から二名、即ち主事と代表委員が出席して打合せ會がある事になつて居たので、照沼大原兩氏が之に出席する事になり、記者は天祖祭請願の賛同を得べく用意せるケースを提げて、之に陪乘隨行した。

十、大會第一日

大正七年、時の林知事、現在の林伯が、理髮店ボライ館の鏡に映つた、夕刊賣り少年の姿を見て、深く感に打たれ我國方面委員制度の濫觴をなしてより、十五週年を迎へての大會であるが故に、府市關係者の方の入れ合はずばらしいものである。全國参列者千五百名を迎へる爲、府市の委員千余名が出動して、幹旋の勞をとつてくれた。我等一同揃つて入場、福井縣の後方であつた。さし



大會議會紀念 伯林りよ左て向 部一の影撮念紀會大 事知府縣 伯浦清 侯保久大 者記は端右 事理原 長局羽丹

午前九時、全聯盟專務理事原泰一氏先づ開會を宣し、一同國歌合唱、副會長侯爵大久保利武氏の教育勅語捧讀、會長伯爵清浦奎吾氏の式辭、社會局長官丹羽七郎氏の告辭、來賓大阪府知事縣忍、同大阪市長關一兩氏の祝辭、齋藤首相以下數通の祝電朗讀の順序で、莊嚴に開會式は擧げられ、次いで其制度の發案者である社會局保護課長藤野惠氏の兒童虐待防止法に就いて、約十分の有益なる講演があつて、十一時より副會長伯爵林博太郎氏を議長に推薦、協議會に移る。研究事項は、一、方面委員取扱に關する事項五件。二、方面事務に關する事項七件。三、方面委員助成會に關する件

四、建議に屬する事項五件で、協議の結果、三、四は一府縣から一人宛委員を舉げて、委員會を構成して之に附託討論する事とし、一、二は之亦一府縣より一人登壇、十分以内各府縣の研究事項を開陳する事に決定して中食する事となる。辨當は府市の寄贈である。食後會堂前で紀念撮影をなし、松山委員は除幕式に向ふ。一時半協議會再會、申込順により議長の指令で、

一人、登壇する事になつた。雄辨あり、訥辨あり、大風呂敷あり、小風呂敷あり、前置が長くて本題に入らないうちに、時間経過で引き下げられる人もあつた。要するに地方の研究會か、指導會の問題に過ぎないで、大會の問題としては、餘りに當を得て居なかつたかに思はれた。何れも千篇一律で、たまには一篇一律もな

協議會半ばにして、小山委員と記者は、別室で第三項を議する第一委員會と、第四項を議する第二委員會に出席した。記者の第二委員會では、會する者四十七人

大阪市に敬意を表して、同市若井委員を議長に舉げ、其方法について二三意見があつたが、記者が福島案を出すや、滿場之を賛して協議を進めた。議題は、恩賜醫療終了後の對策に關する建議、結核患者に對する施設に關する建議、精神病患者に對する施設に關する建議

小山委員と記者は、別室で第三項を議する第一委員會と、第四項を議する第二委員會に出席した。記者の第二委員會では、會する者四十七人

市長の挨拶、之に對して東京の鈴木慶四郎氏の代表答辭あり、やがてスモークングループで、原專務理事を中心として、大會の議事進行其他の件について打合せがあり、沼田代議士大阪を代表して、歡迎に關する報告希望等あつて閉會した。記者は此機會に、銘々に例の袋を手渡して、萬事を依頼した。十時宿に歸り、思ひ／＼に出掛けた諸君の歸宿を待つて、對大會の協議をなし、一府縣一名と限られた。方面委員制度創設功

勞者故小川の銅像除幕式には、博士と縁因深き松山委員が参列、第一委員會には小山委員、第二委員會には記者が出席する事に決定して、一同十二時眠りに就く。

協議會半ばにして、小山委員と記者は、別室で第三項を議する第一委員會と、第四項を議する第二委員會に出席した。記者の第二委員會では、會する者四十七人

大阪市に敬意を表して、同市若井委員を議長に舉げ、其方法について二三意見があつたが、記者が福島案を出すや、滿場之を賛して協議を進めた。議題は、恩賜醫療終了後の對策に關する建議、結核患者に對する施設に關する建議、精神病患者に對する施設に關する建議

小山委員と記者は、別室で第三項を議する第一委員會と、第四項を議する第二委員會に出席した。記者の第二委員會では、會する者四十七人

(以下次號)

重要事項摘録

磐炭職員移動

倉田龜之助	町田	新	石田 秀二	販賣	病院
高柳 幸吉	礦務	住吉	村田 寛	郵局	販賣
坂場 榮一	町田	同	若松 久馬	會計	礦務
照井 正之助	高坂	同	澤村 孝造	死亡	
折笠 耕治	同	同	水野 タキヨ	退職	
前川 孝一	同	同	加藤 シモ	同	
小林 正巳	同	同	小山 淳治	同	
高萩 忠孝	同	同			
茅根 正夫	綴	同			
北山 進	町田	同			
廣瀬 六三	第三	同			
熊田 長太郎	町田	同			
遠藤 千代次	運工	同			
横田 卓造	機電	同			
渡邊 茂一	綴	同			
岩間 平馬	機械	同			
新谷 彦資	建築	同			
八島 義忠	會計	同			
山本 眞男	高勞	同			
川角 俊子	健保	同			
山野 善長	病院	同			
山野 邊善長	病院	同			
圓谷 嘉重	高坂	同			

佐藤堀兩校長

縣教育會の委嘱をうけて、鮮満視察に出張した佐藤高坂校長は、無事任務を果して十月十一日歸校。又堀内町校長は十一月八日から大阪に催せらるる、全國聯合小學校教員會に郡代表として出席すべく此程出發した。

跨線橋紀念碑

大正十一年、磐炭及樫村好度氏の發起によつて完成したる經驛跨線橋の見事なる紀念碑は此程紀念館の境内道路に添うて建立された。

校長更迭

御厩第一校長齋藤齋氏は、磐崎第一校に榮轉し、後任として箕輪校長成田政助氏が來任した。而して其歡送迎會は、十月六日內郷館に於て盛大に催された。

運動會

第三小學校は十月十五日、雅友遠藤二郎君は先年長男を亡くし今年また二男庸吉君を失はる左の詠草はその悲憤である真に哀悼に堪へずあにおさ、力合せてうつし世の父と母とを守れとぞおもふ (民惠)

佛敎講演會

瑞芳寺聖光院及本社後援の駒澤大學傳道部照心會の、佛敎講演及童話は、傳道員花岡氏外五名によつて、十月二十一日晝夜二回に涉つて頌徳館に開催、頗る盛會であつた。

住吉坑清祓

事業を復活した同坑では、十月二十七日午前十時より坑前に於て、磐炭礦業所幹部及關係者一同參席、嚴肅なる清祓式を舉行した。

宮澤役付會

十月二十二日同所俱樂部に開催、猪狩主任から諸般の報告希望を述べ、二三事項の協議をなし、大内親和會長の大隈視察談があつた。

相撲大會

磐炭健保組合主催第四回相撲大會は十月二十九日頌徳館庭園に開催。内郷組優勝し、水野前事務部長寄贈の優勝杯は高坂坑須藤定雄君の手に歸した。

選手出發

磐炭の會川競技部監督は、本縣代表の中井川明加藤鐵兒寒河江武雄小坂橋新一の四選手を引率、神宮競技に參加すべく十月二十九日午前總驛を出發した。

本紙贊助金寄贈芳名

- 金參圓 油井 遊佐 誠司
- 金五圓 東京 足立 良裕
- 金參圓 平 水野 虎三郎

補助金下附

豫ねて內郷副業調査會から其筋に申請して居つた、展覽會即賣會補助として、金拾六圓以内下附する旨の指令があつた。

女子青年會

上層武藤、町田井上兩勞務主任によつて計畫された、磐炭始めての試みである女子青年會は、八十余名の會員を獲得、十月二十九日一時より頌徳館に花々しく開會式をあげ、井上主任の司會で、國歌の唱、武藤主任の経過報告と希望、課長代理として田中義技氏の告辭猪狩高坂主任の祝辭、大内講師の講話役員選舉等あり、茶話會に入り、余興として佐藤虎城氏の薩摩琵琶夜討會我映畫銃後の勝利等あつて、夕刻閉會した。

禁酒貯金會

同會では、十月二十九日國分事務方に理事會を開き、重要事項を協議した。尙其後の入會者は左記二十名。

- 比佐長三郎 比佐弘文 橋本金一
- 影山重三郎 浦井直一 井水政喜
- 岡野金之助 鈴木信一 池田喜義
- 丹野定利 安島英雄 大田原七郎
- 三浦源四郎 吉田清助 岡善七郎
- 星茂 平山直藏 山口忠雄 木下茂義 浦井保 以上

內郷村報の

六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總觀和進努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘力を以て、國民善導に當る。

左の一文を添へて、村報號外二千五百枚を發行して、之を持參する事を行はした。第四回全國方面委員大會御列席各位ご時ご時ご

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

御採擇御決議の上 其筋に建議する事に 御賛成下さるを得ば 無上の光榮幸甚とするものであります 敬具

昭和八年十月九日